

## 平成28年度関東・東海地域水稲除草剤試験中間現地検討会報告

山梨県総合農業技術センター 向山雄大

7月5、6日の2日間、山梨県において平成28年度関東・東海地域水稲除草剤試験中間現地検討会が開催され、農薬会社を含む93名が参加した。初日、JR中央本線塩崎駅に近い山梨県総合農業技術センターに集合し、所内で実施している水稲除草剤適2試験圃場の視察調査を行った。今回、山梨県では初中期一発剤5剤、中後期剤1剤及び問題雑草対象剤としてシズイ対象剤6剤について水稲除草剤適2試験を行った。初期に強い葉害が見られた区があったものの、視察当日には回復が認められ、他の区についても概ね良好な除草効果を示していた。

その後、2台のバスに分乗して県内有数の水田地帯のある北杜市へ向かい、武川町の農事組合法人武川ファームの酒米生産圃場を視察した。武川ファームは大規模に水稲の農作業受託を行っている法人である。参加者からは使用している除草剤や散布方法など、様々な質問が飛び交った。その後、白州町の山梨銘醸株式会社にて県産米を用いた酒生産の取り組みについて説明を受けた。山梨銘醸株式会社では、地元白州町を中心に自社栽培を行うとともに、

契約農家と協議会を立ち上げ、全体の8割以上県産米を使用している。

視察を終えて甲府市の「常磐ホテル」に到着後、情報交換会を行った。試験の状況や水稲除草剤の現状課題などについて、多くの方と議論を深めることができた。また、次年度の開催県である静岡県の方からご挨拶をいただいた。

2日目の検討会は、関東支部長の総司会で進められた。水稲除草剤適2試験中間成績の検討は、中央農業研究センターの内野専門員の司会で行われた。各試験地で概ね試験結果は良好であるとのことであった。特別課題の検討では「県内需要に応じた土地利用型作物品目の選定と栽培技術について」と題して、当センターの上野主幹研究員から話題提供を行った。

今回の山梨県開催の検討会では、実需と連携した酒米生産の現状について参加者の方々と共有でき、大変有意義であった。この会を企画された関東支部長とご参加いただいた方々に心から感謝を申し上げます。



写真-1 適2試験圃場視察の様子



写真-2 武川ファーム視察の様子